1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070300084		
法人名	医療法人　健静会		
事業所名	上田病院　赤松の家		
所在地	長野県　上田市　中央1－3－3		
自己評価作成日	平成21年12月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2070300542&SCD=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク　医療福祉事業部
所在地	長野県松本市両島7－1　オフィス松本堂2A
訪問調査日	平成22年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしい生活を最後まで送らせてあげられる様、家族の協力と共に支援していきたい。
医療面の充実と対応の迅速さは自負している。
上田市の大きな行事に参加している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

上田市上田駅前に位置する医療法人健静会　上田病院が経営するグループホームである。このホームは往診しながら支えていた認知症の高齢者を最期まで関われなかったという医師である経営者の思いから作られ、管理者はこの地域をホームや病院が支えたいという強い思いから地域に出向き、相談にもいつでも対応し、自治会への参加も積極的に行っている。病院の敷地内には包括支援センター、訪問看護ｽﾃｰｼｮﾝ等も併設し、その隣にグループホーム「赤松の家」が4階ビルディングの2階、3階にある。2階ホームには通所介護もあり、家族の支援のために都合に合わせほぼ毎日通われる利用者もいる。家族会は定期的に開催され、個別面談も行い家族との意見交換の場になっている。運営推進会議にも家族、包括、市職員、民生委員、自治会の他に訪問看護、病院職員なども出席し、多方面からの協力、関わりがなされている。経営者である医師もホームに訪問しアドバイスをなされ、利用者の重度化に対してはその都度、家族と話し合いをし入院など併設病院もあるため利用者家族の安心感が窺えるホームである。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(　　)

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) ＋ (Enterキー) です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目につく所に理念が掲げられており、理念に沿ったケアの実践につなげている。	ホーム独自のパンフレットが作られ、「赤松の家」としての理念が掲げられる様になった。職員は毎月のミーテイングで復唱し大きな額にデイケア利用者が習字で書いたという理念を廊下のみやすい場所に掲げ日々共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園児との交流、地域の行事への参加、近隣の理髪店の来訪など行っている。	地域自治会に加入し地域活動への参加を積極的に行っている。経営者はホームを地域の人々と共に生活支援できる場と考えている。保育園児との交流もあり、「どんど焼き、上田わっしょいなどの祭り」の参加もし、昨年は太鼓のボランティアが来たときは地域の方も見に来て一緒に楽しんでいかれたこともあった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	通所のグループホームを行っており、現在1名近隣より受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議が開かれ、グループホームからの報告、また、委員の方々からご意見を頂き話し合いが持たれている。	2ヵ月毎の運営推進会議が開かれ家族代表、区長、包括、上田市職員、併設する訪問看護、病院、民生委員などが集まりホームの近況報告、外部評価の取り組み、災害対策でのスプリンクラー設置などについての報告がある。近況報告から民生委員が折り紙ボランティアに来てくれるきっかけにもなった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への出席、グループホームでの行事への参加をして頂いている。	運営推進会議の出席のほかに、法人の事務局長や管理者は、ホームの理解を得ていただくために市との連絡を密に取りホームの行事参加の出席もいただいている。また、市の予防事業への協力も行い法人として場所の提供などにも努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場内で、身体拘束についての研修を行っている。玄関の施錠については、ご家族からの要望もあり、施錠しているが、職員が同行することでの外出を行っている。	身体拘束については、日々、利用者の体の観察を行い強く握るなども含め、拘束にあたる事例などに付いても話をしケアに取り組んでいる。ホームの毎年の課題となる玄関の施錠については、家族会、推進会議などでも話し合い、玄関前が階段であるため危険回避が出来ない空間と判断し鍵の解除は難しい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職場内で、法律も含めた研修を行っている。それをもとに虐待防止徹底に努めている。また、職員同士コミュニケーションをとり、ストレスのない介護を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場内で、権利擁護に関する研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている	ご家族が納得されるまで、十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会があり、管理者、職員と会議を行っている。また、家族会の正副会長が運営推進委員となり、外部との会議にも出席している。	家族会は2ヶ月おきくらいに休祭日を利用し開催しており、全体の会議を行い意見を聞いている。また、家族の個人面談も行い意見、要望、また、利用者のホーム生活の理解をしていただく良い機会にもなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	昨年1月に法人全体として全職員にアンケートを取り、自由に意見、提案をした。GHとしては特別に機会は設けてはいないが、ミーティング等随時行っているので、発言の場はある。	毎月一回のミーテイングがあり職員が意見を言える場がある。日常の日々の中でも思っていることを気軽に言える環境にある。また、管理者も困ったことなど何時でも意見を聞く体制に努めている。昨年、初めて法人全体のアンケートを行い自由に意見を吸い上げた。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境･条件の整備に努めている	代表者は、ほぼ毎日グループホームに顔を出しており、職員個々について把握していると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員に応じた研修への参加を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡協議会への参加、およびグループホーム部会への参加を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入浴時や散歩の時など日常の生活の中で、しっかり話しを伺う。ミーティング等で話し合いを持ち、統一したケアを行う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時、ご家族の話をよく伺い、ご家族の気持ちを受け止めるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族と担当との話し合いを通じ、職員同士の話し合いなどから、ご家族が望まれていることを探る。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とともに生活していく中で、職員が気づいたり、利用者に教えて頂いたり、手助けして頂く。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の協力への感謝の気持ちを常に伝えるようにしている。希望されるご家族には、一日の様子のケース記録に沿い、細かく伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通所介護にご近所の方が週5日以上見えている。 その他馴染みの人については、こちらから働きかけることはしていないが、希望があれば、支援する体制はある。	家族が入居前に利用していた美容院に連れて行く。時々は、馴染みの友達が尋ねてくる。買い物が好きな方にはスーパーに連れて行くと活き活きされる。家族との関係も希薄になりやすいことも考慮し、オムツを購入し毎月来ていただくなどの工夫もされ、家族との絆の大切さも十分理解し支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の配置等への配慮をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人･家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もお見舞いに行ったり、行事に参加して頂いたりしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の話を傾聴し、スタッフがよく観察し、話し合いを持つ。	アセスメント時に生活暦を聞きケアプランに反映する。入居前に買い物が好きであった利用者は買い物に連れて行くと活き活きされる。夜間、尿意があってもトイレに行かず、排尿を繰り返す利用者など困難な事例への対応も本人本位に検討している様子が窺えた。	

外部評価結果(上田病院赤松の家)

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から入所時に伺ったり、家族会の時に話し合いを持ち、ご家族との情報を交換している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりよく観察し、一日の様子をケース記録に記入している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員を利用者の担当制とし、介護計画を作成し、職員皆が共有し、必要に応じ、ご家族との個別面談を設けている。	各々の利用者には担当職員が配置され、月1回のミーテイング時に介護計画の見直しを行う。モニタリング、アセスメントなど「気づきシート」を利用し、それぞれのユニットで質の高い実情に沿ったケアプランにつながる努力も垣間見られた。家族説明も家族会の際に意見を伺い説明も行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践･結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケース記録をとり、業務日誌に記録し、皆が共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状況に応じ、可能な限り個別支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、床屋など近隣を利用し、利用者と関わる機会を設けている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院が隣接しており、いかなる場合も対応できる体制が整っている。また、かかりつけ医がある方は、そちらを受診して頂いている。	かかりつけ医は家族の希望で入居前からの医師が継続している方、併設する病院医師の主治医に変更される方など家族の希望でかかり付け医を決めている。家族が受診に連れて行く。専門医に受診されるときは職員が付いていくときもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が勤務している。また、隣接している病院にも報告、相談できる体制は整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	隣接している病院との間で、対応できる関係づくりがなされている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人･家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	隣接している病院で、対応できる体制が整っている。	隣接している病院があり、利用者の身体状況変化により家族と相談し療養に移るかを相談している。病状が悪化してきたときの他の利用者への影響や家族の思いなども勘案しながらその都度、医師と相談しながら対応していきたい。また訪問看護なども併設しているため終末期への対応の準備はある。今後、ターミナル指針などの検討も考慮している様子が窺えた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職場内での研修が行われている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施している。	H22年1月に隣接する3自地会の災害時の相互応援協定書の取り交わしがなされた。また、スプリンクラーの設置が近々行われる。自動通報システムなども付けてあるため職員の安心もある。消火訓練、非常階段避難訓練などもなされた。避難方法について目印をつけ搬送時に困惑しない対応の工夫がされている。	隣接する3自地会の相互支援協定も結ばれ、今後、年2回の災害訓練と謳われている規定にあわせ、実際に地域の人々の支援を受けながら避難してみる。また、夜間想定などの訓練などにも発展し、全職員が利用者を避難させる方法を身につけることを期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に応じ対応しているが、特に排泄に関する事については、十分配慮し、利用者の表情をよく観察する。	排尿、排便時に周りの方にわからないように声かけをしている。座ったまま失禁してしまう方もいるがいやな思いをされないよう配慮している。職員の自覚を促すように日々の生活の中でも話をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由に過ごして頂いている。利用者個々に応じ、声かけの内容を変え、利用者の気持ちを組みとる努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の表情や体調をよく観察し、その時々に応じた支援を行う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分でできる方は、ご自分で、できない方はご本人の希望に沿うよう、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や料理を作り、利用者と一緒に食材を切って頂いたり、後片付けをしている。	食事の献立は利用者の好みも聞きながら立てている。食事を食べるときには「いただきます」の挨拶をする人、ゴミを捨てに行く人など自分の役割があり、車椅子の方でもゴミを職員と一緒に捨てに行く。食後の食器片付けも順番に行うなど自分で行えることは積極的に行う姿が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士と相談している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の指導のもと、毎食後、口腔ケアを行っている。義歯については、毎晩消毒している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限り、トイレで排泄して頂ける様、個々に応じたトイレ誘導を行っている。	ユニットによっては日中トイレ誘導をしていた利用者が尿意がわかるようになった方ももいる。利用者の排泄パターンをチェックし習慣を活かし、自立に向けた対応の工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要な方には排便表を作り支援し、水分補給や繊維質の多い食材での料理や運動をして頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	公平に入浴して頂く為、入浴のスケジュールは組まれている。	1日おきに入浴は行っている。重度の利用者には2人介助で入浴を行っている。なるべくパジャマを着てもおかしくない時間に合わせ15時のお茶が過ぎてから入浴になる。夜間入浴も考慮したが利用者が高齢となると早く休んでしまう利用者、生活パターンも出来ており多方面から考慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休まれる方は自由にお昼寝をして頂く。また、夜間きちんと休める様、生活のリズム作りを心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のケース記録にファイルされており、確認できる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お誕生会等、生活暦に応じた楽しみ、役割作りができるよう心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ユニット全体として、外出を企画し、外にお連れし、また、毎日の散歩、買い物等、とじこもりにならない配慮をしている。	散歩には、日常的に出かけている。月に一回以上は外出の機会がありソバ作りに出かけ、得意げにソバを打つ利用者がいる。花見に出かけたりアニマルセラピーに出かけたり、その都度外食を楽しんでおりホーム内にか飾られた写真、ホーム便りの写真から楽しそうな笑顔が見受けられた。時には利用者の希望で墓参りに行くこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については、ご家族からの了解を得て、全て職員が行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、家族会のお知らせ等、文字が書ける方には書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に季節の花を飾り、家庭的な雰囲気がある。また、テレビや音楽の音の調節、陽射しの調節等工夫している。	共同スペースである居間は天気のよい日は明るい日差しが入る。建物の2階、3階にあるホームであるために狭さや閉ざされた雰囲気にならないように大きな壁に季節を現す作品がか飾られている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席順を工夫したり、ホーム内にソファーが設置してある。		

外部評価結果(上田病院赤松の家)

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の希望により、写真やテレビ、カーテン等、ご本人の好みに応じ、ご家族と相談し、安心感を与える工夫をしている。	自宅で布団で休まれていた方はそのまま布団対応で行う。利用者の状況に合わせベットに移行している。また、利用者の家族写真や仏壇を持ってこられる利用者もおり、居心地良い居室作りに努めている。居室は、花の名前が付けられており利用者も覚えやすい配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺の設置、段差をなくす工夫をしている。また、ご本人のできる居室や廊下の掃除や洗濯物干し、洗濯物たたみなどできる環境にある。		